

哈薩克、蒙古族、纏頭回を通じ、凡て女子に課するの勞務甚だ過重なり。家事の百般は勿論、有らゆる至難の手工勞働を以て、女子當然の職務と爲して恠まず。殊に哈薩克に至りては、氈幕の結合、分解すら悉く婦人の職任と爲せり。婦人亦能く其の作業に熟練し、僅々十四五分間にて一氈幕の結構を終了す。其の作業の敏活、驚嘆に堪へざるなり。

要するに新疆の女子は、男子の玩弄物たり、忠僕たり。男子は徒に逸し、女子は甚しく勞す。是れ極端なる男尊女卑の結果として、必然の現象なるか。

新疆の女子は、勞務を辭せず。隨て支那本部の女子の如く、室内閉居主義を執らずと雖も、濫りに顔面を他人に暴露せざるを主義とするに至ては、敢て支那本部の婦女と異なること無し。故に良家の女子外出するときは、頭部を被巾し、顔簾を垂るゝを常とす。

纏頭回民の男女相會合して、唱歌舞踏するが如き、女子の被巾を用ひ、顔簾を垂るゝが如き、其の穿てる靴の様子の如き、殆んど歐米の婦人社會と擇ぶ所なく、歐米流行の本源は、蓋し中央亞細亞未開婦人に非ざるか、又東西の服裝及行爲、偶然符合し